



剣淵町が絵本の里とよばれるようになったわけ

俳優の大地康雄さんが剣淵町を訪れた時、絵本の館で子どもたちが目を輝かせながら絵本の読み聞かせを聞いている姿に心を打たれ、映画「じんじん」が誕生し、剣淵町の絵本によるまちづくりが新聞やメディアで紹介され、注目を集めています。なぜ「絵本」でまちづくりが行われたのでしょうか。

絵本を使ったまちおこしの始まり

昭和63年2月、剣淵商工会青年部が少し発想を変えて話を聞こうと企画した、土別市在住の版画家である小池暢子さんの講演会が開催されました。この講演会がきっかけとなり、小池さんを訪ねてやってきた児童図書編集者の松居友さんが剣淵町を訪れた時、「ヨーロッパの田園風景に似た美しい町だ。絵本原画の美術館を建てたら似合うだろう。たくさんの方が訪れて、町の活性化になるのでは」という言葉が、知名度の低い剣淵町をどうにかして盛り上げたいと考えていたおじさんたちに絵本によるまちづくりを始めるきっかけを与えました。

まず、多くの町民に理解を得るために「すばらしい絵本の世界」「絵本を使ったまちおこし」と題した松居友さんの講演会を開催し、約80名の多くの参加者を集め、「絵本原画の美術館」構想に賛同した14名の町民有志で「けんぶち絵本の里を創ろう会」が昭和63年6月8日に発足しました。そして、平成3年8月、13,000冊の絵本が揃った絵本図書室、絵本原画2作品35点を収蔵した絵本原画収蔵館、原画展示室を備えた初代の「絵本の館」が旧役場庁舎を改修し、オープンしました。

オープンを記念して、絵本を身近に親しんでもらい、自分の大好きな絵本を見つけてもらうことを目的に、来館者の投票で決定する「絵本の里大賞」を実施し、昨年度で第22回を迎えました。また、昨年9月に、絵本の館は来館者数60万人を突破し、町民はもちろん、町外の来館者も増えています。さまざまなお会いが重なり結びついた「剣淵町」と「絵本」は、今日、町内外問わず多くの方に愛される絵本の里として、映画等、多様なまちづくりのきっかけを生み出しています。

絵本と地域を結ぶ



●生命を育てる大地の会●

絵本の里をつくろう会会員でもあるメンバーたちが作る農作物は「子どもや剣淵の未来のために」との想いを込めて、人や環境に優しい無農薬・減化学肥料にて作られています。絵本の里大賞では、副賞として大地の会農産物が使われています。



●西原学園・北の杜舎●

生徒の作品である、さをり織・焼き物等の販売や、北の杜舎が運営する絵本の館内の喫茶店「らくがき」では、おいしい軽飲食を安価で提供しています。



●芽ぶっく●

絵本や紙芝居の読み聞かせボランティアを行う団体です。小学校・絵本の館・ひらなみ荘で読み聞かせを行い、絵本の楽しさを伝えています。

絵本の館内での様々な活動



堀川真さんの創作教室

旭川市在住の絵本作家である堀川真さんによる、子どもたちでも簡単に作れる工作を教わる教室です。



原画展

絵本原画等の展示会を定期的に行っています。

わくわく放課後タイム

小学生が対象で、学校が終わった放課後、絵本の読み聞かせや工作などで楽しく過ごす時間です。



おはなしタイム

絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアターなど、第1・2土曜日に行っています。



ちびっこあそびタイム

未就学児が対象で、毎月3回火曜日に親子あそびや読み聞かせなどで過ごしています。

そろばん・習字教室

小学生を対象に、そろばん教室を第1・3木曜日に、習字教室を第2・4木曜日に開催しています。



季節のイベント

クリスマス、ゴールデンウィーク など



ちくちく工房

月1~2回集まり、パッチワークなど絵本の館を華やかにする作品を作ってくれます。

25年前、「絵本は読むものではなく読んで聞かせてもらうものです」と講演会で松居友さんが、手島圭三郎さんの「ひぐまのあき」の読み聞かせをしてくれました。うっとりとして聞いていると、子どもの頃に宮城県出身の本家のばあちゃんに聞かせてもらった東北地方の昔話を思い出し、心が温かくなりました。松居さんと色々な話をしていると、あいつは作家や編集者と馬が合いそうだ、あいつを会長にして俺達は楽をしようという悪だくみに気付かず、初代会長を無理やりさせられ、私は怒り、言い出しっぺの商工会の人たちがやれば良いと言うと、会長は何もしなくて良い、作家画家の人たちが来た時、相手をしてくれればそれでいいと引き受けましたが、何から何までやらされました。男の人たちが絵本ですから怪訝な顔をされましたが、町を活性化させたいという仲間の力や町内外問わず多くの支援と大澤前町長の決断、小池先生や青木久子さんの絵本原画など、200



点以上の寄贈があり、今の絵本の里があります。絵本の里が軌道に乗った頃、仲間から「会長は何もしなくていい」と言ったのは、家の仕事は何もしなくていいの意味だと聞き、騙されたと思いましたが、熱い思いを持った仲間とまちづくりができたこと、大地さんの力で映画になり、絵本の本質的な力「たかが絵本・されど絵本」を改めて感じさせてくれた事に心より感謝しています。

繪本の里を創ろう会初代会長 高橋 毅さん

繪本の里を創ろう会会長メッセージ



繪本美術館構想の元となった南桜町の丘陵地帯

子どものいる家庭は勿論のこと、どこの家にも絵本の1冊や2冊はあり、読み聞かせもされていると思います。絵本は絵と短い文で子どもたちに夢や喜び、悲しみ、疑問や発見など一人ひとり感じ方に違いはありますが、情操教育の材料になっていると思います。そのことは大人にも同じことが言えるのではないのでしょうか。

私が子どもの頃は絵本をあまり読みませんでした。絵本よりも昔話をよく叔父から聞かされたことを覚えています。絵本を見るとあの頃のことを懐かしく思い出されると同時に、気持ちがいとおもいます。



繪本の里を創ろう会も25年になります。読み聞かせをはじめ、絵本に慣れ親しんでもらう活動をしてきました。今後も、絵本の館や各関係機関、団体などに協力をいただきながらこれまでの事業を継続していくことがまちづくりにも繋がるものと思います。これからは、若い人たちが中心に活動を担っていくことを期待しています。

繪本の里を創ろう会6代目会長 生出 孝男さん